

2022年01月19日

ベトナムのテト休暇

ベトナムでは旧暦で新年を祝い、旧暦の正月を「テト」と呼びます。テトは年間で一番長い休暇で、ベトナム人にとって最も重要な休日です。2022年は新暦の2月1日が元旦となります。労働法ではテト休暇を5連休と定めていて、2022年のテト休暇はテト日前後の土日と併せて9連休となります。今回はベトナムのテト休暇を紹介します。

テトの飲食：テトの料理といえば、バインチュンやバインテトが欠かせません。これらはもち米と豆や豚肉などをバナナの葉やラーゾンという葉などで包み10時間～12時間ほど茹でたもので、バインチュンは四角形でバインテトは丸くて長い形のもので、正月に欠かせない日本のお餅と似ています。テトの飲み物は、手作りのお酒などベトナムの伝統的な飲み物が好まれています。最近では、その他にワイン、ビール、ソフトドリンクなども人気があります。



バインチュン



バインテト

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

テトの花：ベトナムのテトを代表する花ですが、北部はピンクの桃の花「ホアダオ」で、南部は「ホアマイ」という黄色い梅の花です。ハノイ出身のベトナム人は、鮮やかなピンクの桃の花を見ると、春がきたと感じます。桃の花が咲かない南部でテトのシンボルとなるのはレモンイエローのホアマイで、金運アップを連想させる花です。



北部のホアダオ



南部のホアマイ

テトの伝統的な習慣：

「送旧迎新」の考え方：古いものを送り出して新しいものを迎えるという考えから、大晦日までに家や周囲を掃除し、お風呂に入り、新年用の新しい洋服や食品を用意しておくのがベトナム人のテトの習慣です。テトの一日の朝は、掃除をしないという習わしもあります。これは、幸せや福、富などの良いことまで家の外に掃き出してしまうと考えられているからです。

「マムグークワ」（5種の果物のフルートレイ）：大きな皿の上で果物の五類が並んだものを家に飾り付けることがテトの特徴のひとつです。皿に並んだ果物はそれぞれの呼び方、色、並び方によって意味があり、家主の願いを表現します。

先祖に礼拝：旧暦の12月30日の夕方、各家庭では料理や果物を準備して祭壇に飾り、祖先の霊に拝礼します。古い一年間を見送り、新年を迎えるための祖先への報告をするもので、ベトナムでは「キツネザルを家に迎える儀式」と呼びます。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



mamguk



Tet's traditional habit

大晦日の拝礼：大晦日には、食べ物や果物を盛り合わせたお供え物を並べ、もともと神聖とされる天の神様に拝礼します。

旧暦の元旦から旧暦 1 月 3 日まで、ベトナムの人々は、家族全員で祖父や祖母の家を訪問し新年を祝い、子供達には赤い袋のお年玉をあげます。また、先生、友達、近所のお宅なども訪問し、新年のお祝いをします。そして、お寺を訪れることもTetの習慣の一つとなっています。

最近ではTet行事を簡略化する傾向がありますが、ベトナム人にとってTetは今でも特別な意味を持っています。今年はまだコロナ禍の影響がありますが、安全にTet休日を過ごすために、誰もが政府の感染防止策の指示に厳格に従うことが求められています。あけましておめでとうございます！

【写真提供：CPVN】

<http://www.capital-am.co.jp>

以上